

建築文化賞

高齢者・障害者等に配慮した建築物

建具の工夫が生きるさわやかな障害者施設

山武みどり学園

建築主：社会福祉法人 ひすいかい 翡翠会
設計：株式会社 榎本建築設計事務所
施工：戸田建設株式会社 千葉支店

所在地：大網白里町大網5347



水平垂直のグリッドを基調とした外観（撮影 小島広行）

穏やかな田園風景の中に、2階建てに抑えた低層の建物が、伸びやかに配置されている。木ルーバーやアルミサッシュの内側に立てられた可動の木製建具が、柔らかな表情をつくり、「施設」建築の殺伐さを全く感じさせない。

しかし、この建築が本当に評価されなければならないのは、そういう次元のことでないと、学園内を案内されてつくづくと感じさせられる。

成長期にある知的障害者に対する細やかで深い配慮が、たとえば引き戸を使って、自分でプライバシーがコントロールできる個室と廊下の関係、各グループごとに設けられたホームベースなど、随所に見てとれる。

窓側につけられた木製の建具も入園者が簡単に外との関係を調整できるためのものであった。

作業指導室は多目的ホールでもあり、多重に使用され、時には地域の人々の利用もあるという。この施設が地域に好意的に受け入れられ、交流もあるというのはこの建築の力でもあり、もちろん実際学園の運営にあたっているスタッフの力でもある。こうした施設が近隣と良好な関係を築いている例は残念ながら、稀である。このような山武みどり学園のあり方を見るにつけ、設計者と学園の担当者の積み上げてきた信頼関係の大きさがしのばれる。



◀ 木製フラッシュユウの開閉により変化する表情



◀ 明るく開放的な共用空間の創出

必ずしも潤沢とは言えない予算で、洗練されたしかもさわやかな空間がそこにはある。子供たちの生き生きとした表情が、なによりもこの建築の価値を証明している。（篠原聡子）